

自助・共助に関する提言案についての樹形図修正対比表

平成20年(2008年)10月29日

滋賀県流域治水政策室

第1の根っこ：知恵を広める（みんなで伝え合うわかりやすい情報）（根毛番号1および2）

知恵を広める（みんなで伝え合うわかりやすい情報） 第6回住民会議時点	意見反映内容	知恵を広める（みんなで伝え合うわかりやすい情報） 第7回住民会議時点
<p>（目指す姿） 「水害は必ず起こる」との覚悟をもって普段からの備えや水防活動・避難行動ができるように、関係する全ての人々が、地域の水害に関するさまざまな情報を確実に共有する。</p>	<p>意見1（松尾委員） ・「関係する全ての人々」は、「全ての人々」ではないか。</p>	<p>（目指す姿） 「水害は必ず起こる」との覚悟をもって普段からの備えや水防活動・避難行動ができるように、<u>全ての人々が、^{意見1}地域の</u>水害に関するさまざまな情報を確実に共有する。</p>
<p>・地域は、水害の備えに役立つ地域の情報・知恵（水害体験者の経験、地域の水害履歴、自主避難ルールなど）、行政から提供される情報（浸水予想や川の整備状況）を一人でも多くの住民が知ることができるように工夫する。特に関心が薄い若い世代や新住民へと繋げる。</p>	<p>意見2（松尾委員） ・文章をもっと軟らかい表現にできないか。若い人ばかりが関心がないのではない。 意見3（中村委員） ・若い人や新住民は問題であるのだから、表現を和らげて課題として残しておくべきだ。</p>	<p>・<u>地域は、水害の備えに役立つ地域の情報・知恵（水害体験者の経験、地域の水害履歴、自主避難ルールなど）、行政から提供される情報（浸水予想や川の整備状況）を一人でも多くの住民が知ることができるように工夫する。</u>^{意見2、3、4、※}</p>
<p>—地域は、みんなで集まって情報を共有し、記憶の情報を形にして残す。冊子でとりまとめるだけではなく、看板などにして現場にも残す。 —地域は、ハザードマップを住民自らの手で作ったり、図上訓練(DIG)を行ったりする。 —子どもたち、親たちの若い世代に知恵を広げるため、これらの活動を学校教育の場でも行う。 —地域は、川の状態を日常的に把握するために、川に関する市民活動や環境活動と連携したり川を歩いたりして、防災に役立つ情報を収集する。 —さらに、これらの地域の活動に対して、専門家・行政は、活動の機会を設けたり、情報提供したり、人材・材料を提供するなどにより支援する。</p>	<p>意見4（多々納アドバイザー） ・知らない人がいない状態にすることが必要である。 修正（作業部会） ・文章を推敲しました。 意見12（多々納アドバイザー） ・図上訓練=DIGではない。冗長な表現となっている。DIGを削除してはどうか。 修正（作業部会） ・文章を推敲しました。 意見9（歯黒委員） ・学校で子どもが出前講座を受けても、その報告が無く、情報を共有できない。家族全体にその情報が伝わるようにきめ細やかな情報発信が必要である。家にいる人は情報を受けることができない。 修正（作業部会） ・文章を推敲しました。 意見4（多々納アドバイザー） ・知らない人がいない状態にすることが必要である。 意見5（杉本委員） ・専門家を定義しておく必要がある。専門家=教授と考えた場合、教授が繰り返し地域に出向いていくか疑問である。</p>	<p>—地域は、みんなで集まって情報を共有し、記憶の情報を形にして残す。冊子でとりまとめるだけではなく、看板などにして現場にも残す。 —地域は、ハザードマップを住民自らの手で作ったり、図上訓練を行ったりする。^{意見12} —<u>全ての人々が知識や情報を共有できるよう、様々な機会を利用してこれらの活動を実施する。</u>^{意見9、※} —<u>子どもたち、親たちの若い世代に知恵を広げる工夫をする。</u>^{意見9} —<u>住民自らが勉強し、地域での水害への備えに役立つ知識や情報を得る。</u>[※] —<u>地域は、新たに地域に入ってくる人々に水害の危険や対応の知恵を伝える。</u>^{意見4、※} —<u>地域は、川を歩いたりして、川の状態を日常的に把握し、防災に役立つ情報を収集する。</u>[※] —<u>地域は、川に関する市民活動や環境活動と連携し、災害に強い地域づくりを進める。</u>[※] —<u>行政は、これらの活動が地域で展開されやすくなるよう支援する。</u>^{意見5}</p>

（凡例）[※]：第6回住民会議時点の文章を推敲し、記述を変更した箇所です。

^{（数字）}：委員のご意見を受けて、樹形図の記述を変更した箇所です。（ ）内の数字は、委員の意見一覧表の番号です。

第1の根っこ：知恵を広める（みんなで伝え合うわかりやすい情報）（根毛番号3）

知恵を広める（みんなで伝え合うわかりやすい情報） 第6回住民会議時点	意見反映内容	知恵を広める（みんなで伝え合うわかりやすい情報） 第7回住民会議時点
<p>・専門家・行政は、水害への備えに役立つ情報を地域や個人に向けて積極的に公表する。また、情報公開して終わりではなく、公表した情報を、一人でも多くの住民が知ることができるように工夫する。特に関心が薄い若い世代や新住民へと繋げる。</p>	<p>意見2（松尾委員） ・文章をもっと軟らかい表現にできないか。若い人ばかりが関心がないのではない。 意見3（中村委員） ・若い人や新住民は問題であるのだから、表現を和らげて課題として残しておくべきだ。 意見4（多々納アドバイザー） ・知らない人がいない状態にすることが必要である。</p>	<p>・行政は、水害への備えに役立つ情報を地域や個人に向けて積極的に公表する。また、情報公開して終わりではなく、公表した情報を、一人でも多くの住民が知ることができるように工夫する。^{意見2、3、4、※}</p>
<p>—行政は、地域の安全度(危険箇所)、浸水予想、河川の整備状況・予定を公表する。</p> <p>—専門家・行政は、地域に出向いて行って出前講座を繰り返して行う。</p> <p>—出前講座などでは、紙芝居、水害標語作り・日めくり、危険情報を看板にするなど、視覚的・感覚的にも情報を伝える。</p> <p>—行政は、いつでも誰にでも水害に関する情報を提供できる窓口を準備する。</p> <p>—子どもたち、親たちの若い世代に知恵を広げるため、これらの活動を学校教育の場でも行う。</p>	<p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p> <p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p> <p>意見6（中村委員） ・出前講座を住民説明会などわかりやすい言葉で表現してはどうか。我々の意図する意味で伝わるか疑問である。 ・出前講座は分かりにくいし、いやいややっているイメージがある。「勉強会」という文言の方がよいのではないか。 意見7（多々納アドバイザー） ・出前講座は勉強会と称し、県民が主体である表現にする。</p> <p>意見8（多々納アドバイザー） ・出前講座は勉強会と称し、県民が主体である表現にする。</p> <p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p> <p>意見9（歯黒委員） ・学校で子どもが出前講座を受けても、その報告が無く、情報を共有できない。家族全体にその情報が伝わるようにきめ細やかな情報発信が必要である。家にいる人は情報を受けることができない。</p>	<p>—行政は、地域の安全度(危険箇所)、浸水予想、河川の整備状況・予定を公表する。</p> <p>—行政は、地域での水害への備えに役立つ情報に関する勉強会を支援する。[※]</p> <p>—行政は、地域に出向いて行って出前講座などの啓発活動を繰り返し行う。^{意見6、7}</p> <p>—行政は、視覚や感覚にも訴える知識や情報の伝え方についての工夫をする（防災紙芝居、水害標語日めくり、洪水位標など）^{意見8}</p> <p>—行政は、いつでも誰にでも水害に関する情報を提供できる窓口を準備する。</p> <p>—行政は、学校教育や生涯学習の場を通じて防災教育を推進する。^{意見9、※}</p>

（凡例）[※]：第6回住民会議時点の文章を推敲し、記述を変更した箇所です。

^(数字)：委員のご意見を受けて、樹形図の記述を変更した箇所です。（ ）内の数字は、委員の意見一覧表の番号です。

第1の根っこ：知恵を広める（みんなで伝え合うわかりやすい情報）（根毛番号4）

知恵を広める（みんなで伝え合うわかりやすい情報） 第6回住民会議時点	意見反映内容	知恵を広める（みんなで伝え合うわかりやすい情報） 第7回住民会議時点
<p>・地域・行政は、水防活動や避難のきっかけとなる情報を、誰もが分かりやすく実感や切迫感の持てるものにする。また地域は、行政や通信機器に頼り切らないよう、自ら入手・判断できるきっかけ情報を持つようにする。</p>	<p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p>	<p>・行政は、水防活動や避難に関する情報を、住民が実感を持ち切迫感を感じられるように、分かりやすく伝達する工夫をする。加えて、地域は、自らの判断で避難できるよう独自の工夫をする。[*]</p>
<p>—行政が避難勧告などを出す場合は、「避難してください」とアナウンサーが話すようではなく、命が危ないということを緊迫感を持って繰り返し伝える。</p>	<p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p>	<p>—行政が避難勧告などを出す場合は、緊迫感を持って命が危ないということを繰り返し伝える。[*]</p>
<p>—行政は、さまざまな伝達手段（インターネットなど利用者が限られた方法だけではなく、誰でも使いやすいアメダス110番など）で、情報が伝わるようにする。</p>	<p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p>	<p>—行政はできるだけ多様な伝達手段を用いて、情報が確実に伝わるようにする（防災行政無線、インターネット、携帯電話、ホットラインの開設など）。[*]</p>
<p>—地域は、地域にある半鐘・スコープ・太鼓などの音、連絡網を使って情報伝達を行う。</p>	<p>意見10（中村委員） ・半鐘・スコープ・太鼓などの音は情報伝達である。お地藏様などは避難の判断である。 ・お地藏様という言葉だけでは分からない。首まで水位がくる等の気づきの判断基準を明確に盛り込むべきだ。</p>	<p>—地域は、避難などの情報を伝える独自の工夫をする。（例えば、地域にある半鐘・スコープ・太鼓などの音による伝達や、独自の連絡網を使って情報伝達を行うなど。）^{意見10、11、*}</p>
<p>—地域は、お地藏様などの分かりやすい目印を使って、水防活動や避難の判断を行う。</p>	<p>意見11（多々納アドバイザー） ・「地域は独自の手法を打つべき」という旨を明確にするべきである。</p>	<p>—地域は、水防活動や避難の判断を自ら行う独自の工夫をする。（例えば、お地藏様などの分かりやすい目印を使って、水位をはかるなど。）^{意見10、11、*}</p>
	<p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p>	

（凡例）^{*}：第6回住民会議時点の文章を推敲し、記述を変更した箇所です。

^(数字)：委員のご意見を受けて、樹形図の記述を変更した箇所です。（ ）内の数字は、委員の意見一覧表の番号です。

第1の根っこ：知恵を広める（みんなで伝え合うわかりやすい情報）（根毛番号5）

知恵を広める（みんなで伝え合うわかりやすい情報） 第6回住民会議時点	意見反映内容	知恵を広める（みんなで伝え合うわかりやすい情報） 第7回住民会議時点
<p>・災害時に皆が助けあえるよう、災害時要援護者の情報を共有する。</p>	<p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p>	<p>第3の根っこ「組織をつくる（地域は地域で守る）」（4番目の根毛）の内容と重複するため、削除しました。</p>
<p>ー地域が中心になって各戸アンケートをとったり、社会福祉協議会や民生委員などとの連携によって災害時要援護者の居場所などを把握しておく。</p>	<p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p>	<p>ー第3の根っこ「組織をつくる（地域は地域で守る）」（4番目の根毛）の内容と重複するため、削除しました。</p>

（凡例） ____※：第6回住民会議時点の文章を推敲し、記述を変更した箇所です。

____(数字)：委員のご意見を受けて、樹形図の記述を変更した箇所です。（ ）内の数字は、委員の意見一覧表の番号です。

第2の根っこ：人をつくる（誰もが役割を果たす）（根毛番号1 および2）

人をつくる（誰もが役割を果たす） 第6回住民会議時点	意見反映内容	人をつくる（誰もが役割を果たす） 第7回住民会議時点
<p>（目指す姿） 地域を構成する全ての人々が自ら備え、自ら判断し、自ら行動する。地域には、熱く燃える自主防災活動のリーダーと担い手があり、お互いに助け合う。</p>		<p>（目指す姿） 地域を構成する全ての人々が自ら備え、自ら判断し、自ら行動する。地域には、熱く燃える自主防災活動のリーダーと担い手があり、お互いに助け合う。</p>
<p>・水害は起こるといふ実感を持ち、備える人、助け合える人、逃げようとする人、きちんと逃げられる人をつくる。</p>	<p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p>	<p>・水害は必ず起こるといふ実感を持ち、普段から水害に備える人をつくる。[※]</p>
<p>－地域は、行政が出す情報（浸水想定区域図）などを利用して、実際の被害がイメージできる防災訓練を実施する。また、夜間や雨天など、多様な場面で防災訓練を実施する。</p> <p>－地域は、住民一人ひとりが、危険箇所や避難箇所を含めた避難の方法をしっかりと把握できるように、図上訓練（DIG）を実施したり、自分たちの手で地域のハザードマップづくりを行う。</p> <p>－住民は、携帯電話・ラジオ・杖・懐中電灯など、避難行動に必要な道具を揃え、使い方を学習しておく。</p> <p>－住民は、自分が住んでいる場所の水害履歴や浸水想定区域図などを参考にして、敷地の土台を高くしたり、貴重品を2階に上げておくなど、水害に強い住まいをつくる。</p> <p>－地域は、環境保全の活動や環境学習、地域の祭りなどの地域行事と一緒に水防訓練や水害に関する学習会を実施するなど、「楽しい防災」、「防災と言わない防災」によって、多くの人の参画を促す。</p>	<p>意見 12（多々納アドバイザー） ・図上訓練=DIG ではない。冗長な表現となっている。DIG を削除してはどうか。 修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p> <p>意見 13（多々納アドバイザー） ・水害に強い住まいをつくる。だけではダメか？ ・水害に強い住まいをつくる話と、建てた分は水害にあったときに被害が少なくなるようにすることと分けてはどうか。</p> <p>意見 14（杉本委員） ・「楽しい防災」「防災と言わない防災」という言葉を1回も使ったことがないと思う。1回も使っていない言葉を使うのはどうか。普通の人は分からない。 意見 15（大橋委員） ・楽しんで防災教育や防災の勉強会等々に取り組まなければ、なかなか継続できないだろうと考え、みんなが楽しめる、集える防災にしなければならないという意味を込めている。 意見 16（多々納アドバイザー） ・「防災と言わない防災」は大阪大学の渥美先生がずっと使っている言葉である。 ・「楽しい防災」「防災と言わない防災」を説明すると文章が長くなりすぎる。削除した方がよい。 修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p>	<p>－地域は、行政が出す情報（浸水想定区域図）などを利用して、実際の被害がイメージできる防災訓練を実施する。また、夜間や雨天など、多様な場面で防災訓練を実施する。</p> <p>－地域は、住民一人ひとりが、危険箇所や避難箇所を含めた避難の方法をしっかりと把握できるように、<u>図上訓練を実施したり、自分たちの手で地域のハザードマップづくりを行う。</u>^{意見 12、※}</p> <p>－住民は、携帯電話・ラジオ・杖・懐中電灯など、避難行動に必要な道具を揃え、使い方を学習しておく。</p> <p>－住民は、自分が住んでいる場所の水害履歴や浸水想定区域図などを参考にして、敷地の土台を高くするなど、<u>水害に強い住まいをつくる。</u>^{意見 13}</p> <p>－地域は、環境保全の活動や環境学習、地域の祭りなどの地域行事と一緒に水防訓練や水害に関する学習会を<u>楽しく実施するなど、多くの人が参加しやすくなる工夫をする。</u>^{意見 14、15、16、※}</p>

（凡例） [※]：第6回住民会議時点の文章を推敲し、記述を変更した箇所です。

^{（数字）}：委員のご意見を受けて、樹形図の記述を変更した箇所です。（ ）内の数字は、委員の意見一覧表の番号です。

第2の根っこ：人をつくる（誰もが役割を果たす）（根毛番号3）

人をつくる（誰もが役割を果たす） 第6回住民会議時点	意見反映内容	人をつくる（誰もが役割を果たす） 第7回住民会議時点
<p>－専門家・行政は、水害に備えられるように、これらの住民や地域の活動に対して事前にきちんと情報提供をしたり、人材を派遣するなどにより支援する。</p>	<p>意見5（杉本委員） ・ 専門家を定義しておく必要がある。専門家=教授と考えた場合、教授が繰り返し地域に出向いていくか疑問である。 修正（作業部会） ・ 文章を推敲しました。</p>	<p>－行政は、水害に備えられるように、これらの住民や地域の活動に対して事前にきちんと情報提供をしたり、人材を派遣するなどの支援をする。^{意見5、※}</p>
<p>・ 地域での防災活動の担い手を増やす。</p>		<p>・ 地域での防災活動の担い手を増やす。</p>
<p>－地域は、自治会に所属していない人たち（学生・地元企業に通う人など）も地域でのさまざまな防災活動に巻き込む。</p> <p>－勤めに出る住民は、地域が危険な場合は、地域の防災活動を優先し地域にできるだけ留まる。</p>	<p>意見17（多々納アドバイザー） ・ 言い方が強い気がする。 意見18（松尾委員） ・ 企業戦士であるから、会社に出向くと思う。</p>	<p>－地域は、自治会に所属していない人たち（学生・地元企業に通う人など）も地域でのさまざまな防災活動に巻き込む。</p> <p>－勤めに出る住民は、地域が危険な場合は、地域の防災活動を優先し地域に留まるように努める。^{意見17、18}</p>
<p>－専門家・行政は、これらの地域の活動に対して、関係する組織（学校や企業など）に協力するように働きかける。</p>	<p>意見5（杉本委員） ・ 専門家を定義しておく必要がある。専門家=教授と考えた場合、教授が繰り返し地域に出向いていくか疑問である。 修正（作業部会） ・ 文章を推敲しました。</p>	<p>－行政は、これらの地域の活動に対して、関係する組織（学校や企業など）に協力するように働きかける。^{意見5、※}</p>

（凡例） ※：第6回住民会議時点の文章を推敲し、記述を変更した箇所です。

（数字）：委員のご意見を受けて、樹形図の記述を変更した箇所です。（ ）内の数字は、委員の意見一覧表の番号です。

第2の根っこ：人をつくる（誰もが役割を果たす）（根毛番号4）

人をつくる（誰もが役割を果たす） 第6回住民会議時点	意見反映内容	人をつくる（誰もが役割を果たす） 第7回住民会議時点
<p>・水害への心構えを持ち、地域を愛する熱いリーダーを持つ。</p>		<p>・水害への心構えを持ち、地域を愛する熱いリーダーを持つ。</p>
<p>－住民は、地域の先人たちの苦労や地域の目指す姿を互いに語り、伝え合うことにより、地域への思いを持つ人を増やす。</p> <p>－専門家・行政は、出前講座などのサポートにより、地域の熱いリーダーを養成する。</p>	<p>意見5（杉本委員） ・専門家を定義しておく必要がある。専門家=教授と考えた場合、教授が繰り返し地域に出向いていくか疑問である。</p> <p>意見19（多々納アドバイザー） ・「サポートにより」を外し、「養成する手助けをする」としてはどうか。 ・地域リーダーの養成の手助けを行政がするとした方がよい。</p> <p>意見20（大橋委員） ・行政は、地域の熱いリーダーを養成するように心がける。で、どうか。</p>	<p>－住民は、地域の先人たちの苦労や地域の目指す姿を互いに語り、伝え合うことにより、地域への思いを持つ人を増やす。</p> <p>－行政は、地域の熱いリーダーを養成する手助けをする。^{意見5、19、20}</p>

（凡例） ___※：第6回住民会議時点の文章を推敲し、記述を変更した箇所です。

___(数字)：委員のご意見を受けて、樹形図の記述を変更した箇所です。（ ）内の数字は、委員の意見一覧表の番号です。

第3の根っこ：組織をつくる（地域は地域で守る）（根毛番号1 および2）

組織をつくる（地域は地域で守る） 第6回住民会議時点	意見反映内容	組織をつくる（地域は地域で守る） 第7回住民会議時点
<p>（目指す姿） 信頼関係で結ばれたご近所、自主防災を担う活発な組織、自主防災のルールを持ち、地域がどのような水害にあっても、自分たちで地域を守れるような取り組みを進める。</p>		<p>（目指す姿） 信頼関係で結ばれたご近所、自主防災を担う活発な組織、自主防災のルールを持ち、地域がどのような水害にあっても、自分たちで地域を守れるような取り組みを進める。</p>
<p>・災害時に助け合える、信頼関係で結ばれたご近所をつくる。</p>		<p>・災害時に助け合える、信頼関係で結ばれたご近所をつくる。</p>
<p>一住民は、地域のお祭りや運動会などの行事に参加して、互いや互いの家庭の状況を知ることができるように、日ごろからコミュニケーションをとるようになる。</p>	<p>意見 21（多々納アドバイザー） ・「互いの家庭の状況を知ることができる」は踏み込みすぎではないか。</p> <p>意見 28（中村委員） ・「連携」に「共に行動する」という旨の内容が抜けている。</p> <p>意見 22（多々納アドバイザー） ・住民がコミュニケーションをとるためには、齒黒委員が発言された「共に行動することをしなさい」という旨の文章を追加すべきだ。 ・ご近所づきあいを大切にする。では弱い。</p> <p>意見 23（中村委員） ・草刈りはいいのではないか。</p> <p>意見 24（齒黒委員） ・草刈りも主人だけが参加している。月 1 回料理教室やゴミ拾いや、月 1 回の会所の掃除など、字の行事に進んで参加する旨の内容が良い。</p> <p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p>	<p>一住民は、地域のお祭りや運動会などの行事に参加して、日ごろから互いにコミュニケーションをとるようになる。^{意見 21}</p> <p>一住民は地域で共に行動する機会をつくる。（例えば、字の行事や草刈り、料理教室に参加するなど。）^{意見 22、23、24、28、※}</p>

（凡例） [※]：第6回住民会議時点の文章を推敲し、記述を変更した箇所です。

^{（数字）}：委員のご意見を受けて、樹形図の記述を変更した箇所です。（ ）内の数字は、委員の意見一覧表の番号です。

第3の根っこ：組織をつくる（地域は地域で守る）（根毛番号3）

組織をつくる（地域は地域で守る） 第6回住民会議時点	意見反映内容	組織をつくる（地域は地域で守る） 第7回住民会議時点
<p>・自主防災を担う活発で持続的な組織を持つ。</p> <p>－熱いリーダーや担い手を中心になって、自主防災を担う組織を構成する。</p> <p>－行政は、継続して川づくり会議などの場を設けるなどにより、防災に燃える熱い組織・グループの形成を促したり、上下流や左右岸の組織の連携を図ることを支援する。それでも防災に燃える熱い組織ができないときは、トップダウンで学区単位の組織づくりや防災担当者の設置などを呼びかける。</p> <p>－自主防災を担う組織は、自分たちのレベルアップや活性化を図るために流域間や上下流間での活動の交流を行う。</p> <p>－自主防災を担う組織は、継続して活動できるように、仲間どうして川の歴史を調べたり、川で遊ぶなど、半分遊びをいれた活動をする。</p> <p>－行政は、これらの地域の活動に対して、助成金を出すなどして、より活発な活動を促す。</p> <p>－専門家・行政は、公開選考会方式などにより、各地域の活動を評価したり講評することで、活動の価値を再認識し、讃え、組織の活性化を手伝う。</p>	<p>修正（作業部会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を推敲しました。 <p>意見 25（杉本委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「組織をつくる（地域は地域で守る）」ということだが、私のところでも一番小さな単位でのコミュニケーションができない範囲の地域になっている。 ・小さな地域を考えると、地域は地域で守れない。という問題をどう解決するか。 <p>意見 26（多々納アドバイザー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過疎が進んでいる鳥取県の事例で、谷で広域の連携を維持している。 ・集落だけでなく、谷筋で連携なども1つの地域と呼ぶ必要がある。 <p>意見 27（中村委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つ目の根毛の7～8行目に「自主防災を担う組織は、自分たちのレベルアップや活性化を図るために流域間や上下流間での活動の交流を行う。」とある。 ・ここに、過疎については、影響を強化する。旨の文言を追加してはどうか。 <p>修正（作業部会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を推敲しました。 <p>意見 5（杉本委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家を定義しておく必要がある。専門家=教授と考えた場合、教授が繰り返し地域に出向いていくか疑問である。 <p>修正（作業部会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を推敲しました。 	<p>・自主防災を担う活発で持続的な組織を持つ。</p> <p>－熱いリーダーや担い手を中心になって、自主防災を担う組織を構成する。</p> <p>－行政は、川づくり会議などの場を継続して設けることなどにより、防災に燃える熱い組織・グループの形成を促す。 ※</p> <p>－行政は、河川沿いで連合して防災組織を作るなど、人口の少ない過疎地においても防災組織ができるよう支援する。 意見 25、26、27、※</p> <p>－状況により、組織づくりに行政が直接関与する。※</p> <p>－自主防災を担う組織は、自分たちのレベルアップや活性化を図るために、流域間や上下流間での活動の交流を行う。</p> <p>－自主防災を担う組織は、仲間どうして川の歴史を調べたり、川で遊ぶなど、楽しみながら継続的に活動できる工夫をする。※</p> <p>－行政は、これらの活動に対して、助成金を出すなどして、より活発な活動を促す。</p> <p>－行政は、地域での活動が適切に評価される仕組みをつくる。よい活動がみんなに認められ、組織の活性化に繋がる仕組みにする。意見 5、※</p>

（凡例）※：第6回住民会議時点の文章を推敲し、記述を変更した箇所です。

（数字）：委員のご意見を受けて、樹形図の記述を変更した箇所です。（ ）内の数字は、委員の意見一覧表の番号です。

第3の根っこ：組織をつくる（地域は地域で守る）（根毛番号4）

<p>組織をつくる（地域は地域で守る） 第6回住民会議時点</p>	<p>意見反映内容</p>	<p>組織をつくる（地域は地域で守る） 第7回住民会議時点</p>
<p>・水防活動、避難、助け合いのルールを持ち、自分たちの地域を自分たちで守る。</p> <p>一地域は、行政の情報やテレビの報道、情報通信機器などに頼り切らないよう、地域独自にお地蔵様などの分かりやすい目安を使って、水防活動や避難の判断を自分たちでも行えるようにする。</p> <p>一地域は、地域にある半鐘・スコープ・太鼓などの音、連絡網を使って情報伝達を行う。</p> <p>一防災を担う組織は、各戸アンケートや社会福祉協議会・民生委員などと連携することで災害時要援護者を把握し、安心して逃げられる場所（普段通っている福祉施設や病院）、避難を援護する担い手を決めておく。</p> <p>一行政は、これらの地域の活動に対して、行政の持つ情報を提供しながら、地域独自の目安づくりや自主的な情報伝達方法、災害時要援護者の避難方法を一緒に検討する。</p>	<p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p> <p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p> <p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p>	<p>・自分たちの地域を自分たちでまもるための、水防活動、避難、助け合いのルールを持つ。[※]</p> <p>一地域は、普段から、水防活動や避難の判断を自分たちでも行えるようなルールをつくっておく。[※]</p> <p>一防災を担う組織は、各戸アンケートや社会福祉協議会・民生委員などと連携することで災害時要援護者を把握し、安心して逃げられる場所（普段通っている福祉施設や病院）、避難を援護する担い手を決めておく。</p> <p>一行政は、これらの地域の活動に対して、自分たちの地域を自分たちで守るためのルールづくりを住民とともに検討する（地域独自の判断の目安づくりや自主的な情報伝達方法、災害時要援護者の避難支援方法など）。[※]</p>

（凡例）[※]：第6回住民会議時点の文章を推敲し、記述を変更した箇所です。

^(数字)：委員のご意見を受けて、樹形図の記述を変更した箇所です。（ ）内の数字は、委員の意見一覧表の番号です。

第3の根っこ：組織をつくる（地域は地域で守る）（根毛番号5）

組織をつくる（地域は地域で守る） 第6回住民会議時点	意見反映内容	組織をつくる（地域は地域で守る） 第7回住民会議時点
<p>・地域での災害への備えを整える。</p> <p>—自主防災を担う組織は、半鐘などの自主的な通信手段、水防活動に使う土のうや掛矢、避難誘導をするためのポートなど、自主防災に必要な道具を準備しておく。</p> <p>—行政は、必要な道具に関する情報を組織に提供したり、助成金を出したりすることなどにより、自主防災を担う組織が必要な道具を調達することを促す。</p> <p>—地域と行政は、水害への対策として上流の植林など、森林保全の取り組みを行う。</p>	<p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p> <p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p>	<p>・地域での災害への備えを整える。</p> <p>—<u>自主防災を担う組織は、必要な道具を事前に準備しておく（例えば、半鐘、土のう、掛矢、ポートなどなど）。</u>* —<u>行政は、必要な道具に関する情報を提供したり、助成金を出したりすることなどにより、自主防災を担う組織が必要な道具を調達することを促す。</u>* —地域と行政は、水害への対策として上流の植林など、森林保全の取り組みを行う。</p>

（凡例） ____*：第6回住民会議時点の文章を推敲し、記述を変更した箇所です。

____(数字)：委員のご意見を受けて、樹形図の記述を変更した箇所です。（ ）内の数字は、委員の意見一覧表の番号です。

第4の根っこ：仲間をつくる（社会と連携する）（根毛番号1および2）

仲間をつくる（社会と連携する） 第6回住民会議時点	意見反映内容	仲間をつくる（社会と連携する） 第7回住民会議時点
<p>（目指す姿） 社会と連携し、地域だけで守り切れない災害から地域を守る。</p>	<p>意見 29（中村委員） ・「入札条件等に組み入れる」は表現がきつくないか。問題にならないだろうか。</p> <p>意見 30（北井委員） ・他市の事例を参考にしたものだ。</p> <p>修正（作業部会） ・文章を推敲しました。</p>	<p>（目指す姿） 社会と連携し、地域だけで守り切れない災害から地域を守る。</p>
<p>・地域外や異なる目的を持つ団体と協力体制をつくる。</p>		<p>・地域外や異なる目的を持つ団体と協力体制をつくる。</p>
<p>一地域は、周辺の企業や事業者による水防活動の応援、避難所としての利用、物資の支援などのための連携体制を築いておく。あらかじめ訓練なども一緒に行う。</p> <p>一地域は、物資の支援や避難所の相互利用について、流域間、上下流・左右岸での自主防災を担う組織間の協力体制を取り決めておく。</p> <p>一行政は、これらの地域の活動に対して、地域内の企業や地域外の防災組織に対して、地域の防災活動に対する協力をを行うように働きかける。場合によっては、災害時の企業協力を入札条件等に組み入れることで、協力体制を促す。</p>		<p>一地域は、周辺の企業や事業者による水防活動の応援、避難所としての利用、物資の支援などのための連携体制を築いておく。あらかじめ訓練なども一緒に行う。</p> <p>一地域は、物資の支援や避難所の相互利用について、流域間、上下流・左右岸での自主防災を担う組織間の協力体制を取り決めておく。</p> <p>一行政は、<u>これらの地域の活動に対して、地域内の企業や地域外の防災組織に対して、地域の防災活動に対する協力を</u>行うように働きかける。<small>意見 29、30、※</small></p>

（凡例） ※：第6回住民会議時点の文章を推敲し、記述を変更した箇所です。

 （数字）：委員のご意見を受けて、樹形図の記述を変更した箇所です。（ ）内の数字は、委員の意見一覧表の番号です。

第4の根っこ：仲間をつくる（社会と連携する）（根毛番号3）

仲間をつくる（社会と連携する） 第6回住民会議時点	意見反映内容	仲間をつくる（社会と連携する） 第7回住民会議時点
<p>・同じ目的をもつ団体とのネットワークをつくる。</p>		<p>・同じ目的をもつ団体とのネットワークをつくる。</p>
<p>ー地域は、先進地域のリーダーを招いて講演してもらうなど、同様の活動をしている地域や団体同士で交流し、学びあい、高めあう機会を作る。 ー行政は、これらの地域の活動に対して、交流の場づくりなどを通じて、より活発な活動を促す。</p>		<p>ー地域は、先進地域のリーダーを招いて講演してもらうなど、同様の活動をしている地域や団体同士で交流し、学びあい、高めあう機会を作る。 ー行政は、これらの地域の活動に対して、交流の場づくりなどを通じて、より活発な活動を促す。</p>

（凡例） ____※：第6回住民会議時点の文章を推敲し、記述を変更した箇所です。

____(数字)：委員のご意見を受けて、樹形図の記述を変更した箇所です。（ ）内の数字は、委員の意見一覧表の番号です。